



大学連携について

質問 現在行われている横手市と各大学との連携事業について、その意義や効果を伺う

答弁 国内外の大学と連携して行っている事業は26大学39事業で、横手市が抱える様々な課題解決に向けた活動を展開している。高度な研究を行う大学との連携を図ることはとても重要で、今後も活動の輪を広げていく。

質問 横手市が推進する政策に則りながら、「Uターン」を促進

する」という戦略的な意図を込めて、主に関東地区の大学との協定締結を推進すべきだ。

答弁 県内からの進学者が多い関東圏の大学はもちろん、仙台圏や他地域の大学との連携も必要だ。現在、関東圏の大学との連携について検討を進めている。

質問 市長の答弁には「協定締結」という言葉がなかった。私は「Uターン促進」という戦略的な意味からも協定の重要性を申し上げたつもりだが？

答弁 大学はいろんな自治体と接点がある。(協定を結ぶには)深い信頼関係がなければならぬ。いきなり、「この大学が取り組みがいいから協定結びませんか」と訪問しても難しい。



▲青山学院大の考古学実習(金沢城跡)

質問 私は市長が突然「協定結びませんか」とどこかの大学を訪ねていくことなど想定していない。私が言いたいのは今、部署ごとに連携・協力している大学の資産を協定を結ぶことによって全市的に広げ、政策に活かしていくことがこれから必要なのではないかということだ。

答弁 大学が「横手市と協定を結ばなければならぬ」と思いうような施策まで持っていれば素晴らしいと思う。努力したい。

地域防災について

防災士の意義について

質問 防災士は民間資格であるが4月末現在で全国に約11万人おり、「助けられる人から助ける人へ」を合言葉に地域の防災リーダーたるべく活動している。防災士の意義について市長の見解を伺う

答弁 地域で率先して防災活動を実践する人材の育成が急務だ。防災士は正しい知識と適切な判断を兼ね備え、災害時には自助・共助の活動を率先して実践する人材として重要な役割を担うものと認識している。

質問 防災士養成を行っている自治体が多くある。地域防災リーダー育成の観点から、横手市も養成に乗り出すべきだと思いがどうか？

答弁 様々な面からそのような資格の取得を促していくことは大事だと思う。

質問 この資格を取得するには、金額的にも時間的にも易しくない。そのため、大仙市は平成24年度から「防災士育成事業」を始めて150人という目標を達成した。内容は(取得の必須条件である)研修会を誘致し、受講料を全額補助するというもの。横手市にも取得の意識を持っていく人たちはいるはず。何らかの支援ができないか。

答弁 大仙市の取り組みは非常にいい事だと感じた。しっかりと受け止めて検討したい。

一般住宅の「耐震化」の取り組みについて

質問 阪神・淡路大震災の教訓は「国民の多くが耐震性の高い建物に住む」ことだった。3月に策定された第2期の「横手市耐震改修促進計画」の目標達成に向けた具体的方策は？

